

# 全学教育科目の時間割に関する アンケートで寄せられた 代表的意見およびその回答

各ページについて、緑色で塗られた吹き出しが学生からの代表的な意見、白い吹き出しがそれに対する回答です。

学務審議会全学教育新カリキュラム点検・改善WG



はじめに

10月中旬に実施したアンケートでは、多くのご意見をお寄せいただきありがとうございました。

お寄せいただいたご意見については、全学教育科目の時間割やカリキュラムの改善のために活用させていただきます。

また、一部専門科目や履修要件に関するご意見もお寄せいただきましたが、それらは各学部で共有しています。

今後も履修上の不都合点や改善を希望する点が生じた場合には、教務課窓口までお寄せください。

(専門科目に関する点については、各学部教務係に直接お申し出ください。)

## (1) 曜日ごとの時間割配置について

- ・ある曜日には必修の科目が集中しているが、一方で別の曜日には履修できる授業がほとんどなく、バランスが悪いので改善いただきたいです。
- ・1コマ空きが生じる時間帯を解消してほしいです。

各科目とも、担当できる先生や講義室の数に限りがあるため、一部の学部・学科においては科目が集中していたり、逆に空き時間が多く発生したりすることはどうしても避けられません。

空き時間が発生した場合には、各科目の課題など授業時間外学修の時間としてご活用願います。1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容で構成されることとなっており、例として**2単位の講義科目の場合は、15回の授業受講に加え、授業1回あたり4時間の予習・復習を必要**とします。この考え方を念頭に、**選択科目を詰め込みすぎない時間割にするよう工夫**してください。

## (2) 人文科学・社会科学・学際科目群の履修について

- ・同じ時間帯に科目が集中しすぎているため、開講時間帯を分散させてほしいです。
- ・当該時間帯に専門科目や他の全学科目が設定されていないにもかかわらず、学部によって履修できる学部とそうでない学部があるため、すべての学部が履修できるようにしてほしいです。

学生が1 Semester 当たりで授業科目を履修しすぎないようにすること（時間割配置に関する回答も参照）と、開講授業数の肥大化を防ぐために新カリキュラムでは開講時間帯を限定しています。学部によって受講できる時間帯が異なるのは、すべての学部を対象としてしまうと、受講生がその時間帯に集中しすぎて、抽選科目が現状以上に多くなることや、講義室が不足してしまう事態を避けるためです。

2年生での他科目との重複を心配されている方も多いかもしれませんが、**令和5年度以降は2年生でも前期・後期とも1年生と同じ時間帯で人文・社会・学際各科目を受講できます。**

具体的には、3セメの火2は全学部で、木2は理系学部で、それぞれ受講可能となります。

**2年生までの間に履修し終える設計**になっているため、希望の科目が履修できない場合には、その時間は別の科目を受講し、希望の科目を次Semester以降で履修するなど、工夫してください。

令和5年度は開講される時間帯が1・2年生で共通化され、より多様な科目を1・2年生が同時に履修できるようになっていると思われます。

開講時間枠の拡充については、安易に導入すると各学生の履修科目数が増えてしまうため、各科目の履修者数も勘案して慎重に検討します。

## (参考)人文・社会・学際の各科目群開講時間帯・対象学部一覧

### <前期火曜2講時>

・1セメ:文・教育・理の各学部、工学部6～14組      3セメ:全学部

(1セメの法・経済:学際のみ履修可)

### <前期木曜2講時>

・1セメ:法・経済・薬・農の各学部、医学部医学科、工学部1～5,15,16組      3セメ:理系学部

(1セメの文・教育:学際のみ履修可)

### <後期火曜2講時>

・2セメ:文系学部、工・農の各学部      4セメ:工・農の各学部、理学部地球科学系

### <後期水曜1講時>

・2セメ:文・教育・医・歯・農の各学部、工学部1～5,13～16組      4セメ:医・歯・薬の各学部

### <後期金曜1講時>

・2セメ:法・経済・理・歯・薬の各学部、医学部保健学科、工学部6～12組

緑色で示した学部・学科は、当該時間帯は人文・社会のみ履修可能です(学際は履修不可)。

上記の時間帯には、他の必修科目や専門科目が入らないよう調整しています。

万一専門科目が重複した場合の対応については、各学部教務係にご確認ください。

### (3) 学問論演習について

・木曜4講時に川内で授業があるが、木曜5講時の学問論演習が青葉山（または星陵、片平）で開講されており、移動が困難です。

木曜5講時で川内以外のキャンパスで実施される学問論演習については、移動を考慮して開始を遅らせる措置を各教員にお願いしております。

次年度の開講に向けては、テーマ提出の段階で木曜5講時で川内以外のキャンパスで開講する場合は配慮するよう各教員にお願いしています。

学生が希望テーマを提出する段階においても、移動を考慮した開始時間となる旨を明記して募集を実施する予定です。

## (4) 抽選について

- ・ 抽選に外れ、履修したい授業に参加できませんでした。
- ・ 履修希望者に対して受講可能人数が少ないため、受講者数の拡充をお願いします。
- ・ 抽選の実施見込み、方法が事前に周知されておらず、また抽選結果の発表も遅いため、外れた場合に他の科目を履修するのが困難でした。

人文・社会・学際各科目群については、なるべく100名未満の人数制限を行わないように各教員に依頼しております（一部使用講義室等の都合で例外あり）。

また、今年度については**昨年度の履修登録状況を踏まえ、開講コマ数を増やした授業もあります**（心理学、生命科学入門など）。それでも特定の教員の授業に受講者が集中する傾向が見られますため、抽選漏れや混雑を懸念されるようでしたら、同時時間帯の他科目を履修するようご協力願います。

国際教育科目については、留学生との共修という形をとる授業が多い都合、少人数のゼミ形式での実施となり少なめの人数制限をかける科目が生じてしまうことはどうしても避けられません。

科目委員会で受講者選抜方法について各教員に確認しており、30名を下回る定員を設定しないようお願いしているところですので、徐々に改善を図ってまいります。

周知については、教務委員会から担当教員に対し、シラバスや授業実施方法一覧にておおよその定員を明記したうえで、すみやかに結果を知らせるよう改めて依頼するようにいたします。

## (5) キャンパス間移動について

- ・ 専門科目と重複したため、全学教育の取りたい科目が履修できませんでした。
- ・ 10分間で川内北と青葉山（または川内南）の移動があり、履修が困難です。
- ・ 教職科目履修のためだけに川内北に出向くのが煩雑です。

先進科目については2年次以上でも履修できるよう多くの授業が5講時に設定されていますが、各学部での専門科目との重複、およびキャンパスが異なる場合に移動が生じてしまうのはどうしても避けられないことです。

また、文系の川内南キャンパスとの移動については、旧来より10分間での移動は許容されており、これが認められないと多くの科目の開講に支障が生じます。**終了時間を超過しがちの教員がいる場合には、全学・専門を問わず授業担当教員にご相談ください。**

どうしても両科目の履修が困難である場合は、どちらかを翌年度以降に回せないかどうか、検討してください。

教職科目について、移動に困難が生じる場合は集中講義で履修してください。

今回のアンケートで、特に教育学部の専門科目（川内南）から英語（川内北）への10分間移動に関する要望が多く寄せられました。

上記回答の範疇ではありますが、教育学部に対して専門科目を川内北で開講いただけないか、時間割を変更できないか、いずれも難しい場合には終了時刻を厳守するよう要請したいと思います。



## (5) キャンパス間移動について(続き)

(いずれも医学部保健学科からの意見)

- ・ 昼休みの川内北キャンパスから星陵キャンパスへの移動について、徒歩で間に合わない日があります。
- ・ キャンパスバスを増便してほしいです。
- ・ 日本国憲法を履修する場合、川内→星陵→川内と、2回キャンパス移動を強いられます。

キャンパスバスについては、予算と人員の制約の範囲内での運行であることが、「学生の声」ホームページで、意見への回答としてたびたび記載されています。

(参考) <https://www.bureau.tohoku.ac.jp/gakuseishien/gakuseinokoe/>

徒歩での移動に困難が生じる場合は、公共交通機関を利用してください。

<仙台市営バスでの移動例>

川内駅12:21発→東北大学病院前12:35着

東北大学病院前12:38発→川内駅12:53着

日本国憲法については、理系優先クラスが3セメに開講されています。

移動に困難が生じるようであれば、来学期以降履修してください。

## (6) 授業実施形態について

オンデマンド授業を拡充してほしいです。（定員の廃止、時間割設定の柔軟さなどの理由）

大学設置基準により、通学制の大学におけるメディア授業科目（総授業時間数のうち半分以上がメディアを活用して行われる授業科目）の履修は、卒業要件単位を124単位とした場合**60単位まで**と定められています（感染対策の特例としてオンライン授業を実施している科目を除く）。

この60単位の中には専門科目の単位数も含まれるため、**全学教育科目として無尽蔵にオンライン授業を設定できるわけではない**ことをまずご理解ください。

低学年次学生の履修が主となる全学教育科目においては、特に対面での学修効果を重視しています。そのうえで、各授業科目で学修する内容や特性に合わせて、キャンパスで行う対面授業とオンライン授業を効果的に併用した授業実施としています。